

1 【出題の意図と対策】

文学的文章（小説）の読解で、ここでは、志賀直哉の『自転車』が題材です。主人公である「私」が、半世紀以上も前の出来事を回想している場面です。「私」の心を苦しめていた、「萩原の事」とはどういうことか、また、どういういきさつで解決にいたったのかを、心の動きに注意しながら読み取っていきましょう。小説を読むときには、できるだけ登場人物の立場に立って、その境遇や心情に寄り添いながら読むことが大切です。そのうえで、それぞれの設問について、何が問われているのか、選択肢などに明確な根拠があるかどうかを確認しながら解答していきましょう。

【解答】

- ① あやま（った）      ㉑ せいきゆう
- ② 計画的に萩原をだまそうとした（14字）
- ③ イ
- ④ エ
- ⑤ 「私」にいつもの場合とは別の、お金が要る特別なことが起きた（29字）
- ⑥ ウ

【解説】

② ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》  
 「私」が萩原に話した内容を捉えます。結果的には、萩原をだました形になってしまいました。「計画的にそう云ったのではない」というのが最も言いたかったことです。「計画的に萩原をだまそうとして」という内容が書かれていれば正解です。

③ ポイント《人物の心情を正しく理解できるかどうか》  
 「私」は、「ペテンにかけられたというのは、萩原の誤解だ」と考えていました。しかし、教会で「罪」についての説教を聞いているうちに、萩原のことが心を苦しめるようになりました。それで、「私」は祖母から十円を貰って、萩原のところへ出かけています。しかし、萩原は、自分は損をしていないと言って、お金を受け取るうとはしません。それでも、「私」は、「半分の五円だけを無理に受取らせ」ています。一連の出来事に決着をつけ、すっきりしたからです。実際に、受け取らせたあとは「晴々とした気持」「憑物が落ちたような気持」になっています。アは「本心では……萩原の気持ちをおもんばかる」、ウは「会うたびに萩原から自転車を買えと言われるのではないかと不安に思う」、エは「実際には損をさせていたことを知り、申し訳なく思う」が、それぞれ誤りです。

④ ポイント《ことばの意味を正しく理解できるかどうか》  
 「私」の心を苦しめていたことが、「たわいなく」解決しました。「たわいなく」は、「あつげなく」「手応えがなく」という意味で、「たわいなく勝負がついた」などのように使います。

⑤ ポイント《人物の心情を正しくまとめられるかどうか》  
 「私は今、この憶い出を反芻し、一番心に印象深い事は」から始まる段落の内容に着目します。祖母は「時に、つまらぬ事を口喧しく云い、それで喧嘩をする事」もありましたが、「私」が祖母に「十円貰いたい」と言った際には、「金の使い道を」も言も糾さずに渡してくれ、そして、残りを受取る時も黙って受取ってくれ「ています。祖母は、その時、「いつもの場合と別だ」、お金が必要だ、ということを感じて、黙って十円を渡してくれたのです。

⑥ ポイント《文章の表現の特徴について理解できるかどうか》  
 「人並以上にそういう事に……よほど興奮していたに違いない」「——その時の私にはそう思われた——」「これは五十三年前、すべて物価の安かった頃の事で」「私は今、この憶い出を反芻し、一番心に印象深い事は」というように、現在の視点を加えながら、その時の心情や当時の時代背景を詳しく表現しています。

2 【出題の意図と対策】

説明的文章（論説文）の読解です。論説文は、あるテーマに関する研究内容やデータ、見解などについて、筆者が考えを述べた文章です。ここでは、汐見稔幸『教えから学びへ 教育にとつて一番大切なこと』を題材に、「学び」とはどういうことであるかについて考えます。論説文を読むときには、その文章が何について書かれているかを理解し、そこから筆者がどういう結論や考え方を導き出しているかを読み取っていきましょう。

【解答】

- ① ㉑ 裏      ㉒ 作業
- ② ウ
- ③ ア
- ④ a 対象との距離      b 価値判断
- ⑤ エ
- ⑥ X 例 分節の特徴を知り同じに見えていたものを見分けられるようになる（30字）
- Y 実はずながつている
- Z イ

【解説】

② ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
 傍線②の後の段落で、筆者は、「鳥居」を例に挙げ、「物事の裏にあるそのものの属性に興味を持ち、……その対象の背後にある属性、隠れている属性を少しづつ明らかにしていくこと」になると述べています。そして、このように属性を掘り下げるのが「喜び」となって、関連することを『もつと知りたい』という気持ちも生まれます」と説明しています。アは「対象に携わった人々の感情にも触れ」、イは「人に認められたい」、エは「対象に価値があるかを見きわめられるようになる」がそれぞれ本文にない内容です。

③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
 AとBのある部分は、法則を見つげるために必要なことを述べています。直前の段落にも着目すると、Aについては「言葉・名前、その属性を知る」ことは「知識」を増やすことだと考えられます。また、Bは「法則を見つげるためには、特化した思考やつながつていないものをつなげる努力が必要」をまとめている部分なので、対象に対する特化した思考、つまり「専門性」が必要だとわかります。

④ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
 傍線④の前と後に「言葉を上手につなげることで、その対象との距離が変化し、関わり方が更新される」「世界を切り分けた……命題をつくっていく」とあります。つまり、言葉をつなぎ直して別の因果を見つけていくと、対象との距離が変わり、対象との関わり方や価値判断が変わっていくことがあると述べられています。

⑤ ポイント《熟語の構成（組み立て）の知識があるかどうか》  
 ㉑ 「分節」は「節（区切り）に分ける」、㉒ 「帰国」は「国に帰る」で、下の漢字が上の漢字の目的語・対象である熟語です。アは似た意味の漢字を重ねたもの、イは上の漢字が下の漢字を修飾する構成、ウは様子・状態を表す「的」が付いた熟語です。

⑥ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》  
 Xは、「学び」の最初のレベルの、言葉や名前を知ることが説明した内容が入ります。第一〜第三段落で、「木」を例に「言葉や名前を知って見分けることは、世界の分節の特徴を知ることと同じ」であり、「言葉や名前と分節の特徴を紐づけて見分けられるようになったとき」に、その対象についての理解が深まるとあることから、分節の特徴を知り、見分ける（違いを認識する）という内容をまとめます。Yは、法則を見つげることにについて述べています。一つ目の《中略》の後の段落に、「知識を並べて……つなげていく。」の一文に着目しましょう。Zは、別の言葉や属性をつなげて、見えなかったものを見えるようにするという例が入ります。

**3** 【出題の意図と対策】

古文とその解説文の読解問題です。ここでは、兼好法師の『徒然草』について、西村和子が解説を書いたものが題材になっています。古文は、かなづかいや表現法が現代文と違い、難解なものに感じられるかもしれませんが、解説文をしつかりと読んで設問に答えましょう。

【解答】

- ① ふるまいて
  - ② ウ
  - ③ イ
  - ④ X 好意を示す
- Y 例 自分の生きてきた道（9字）

【解説】

- ① ポイント《かなづかいの知識があるかどうか》  
歴史的かなづかいの語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直します。
- ② ポイント《文学史の知識があるかどうか》  
随筆は、筆者の経験や感想を形式にこだわらずに自由に書きつづつたものです。『徒然草』は、清少納言の『枕草子』、鴨長明の『方丈記』と並んで日本三大随筆と言われています。
- ③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
古語の「心にくし」には、「心ひかれる」といったプラスの感情の意味と、「気がかりだ」「いぶかしい」といったマイナスの感情の意味の二つがあり、文脈によって訳し分けます。ここでは、直前に「とても仏典のこまやかな教理などわかりそうもないと見ていた」とマイナスの感想が書かれています。が、「が」と逆接で続くため、「心にくし」は、その反対のプラスの意味で使われていると判断できます。武士出身でとてもこまやかなことはわからないだろうと思えた上人が、東人のことも都人のこともどちらも良い所を挙げながらその気質をうまく表現したため、「心をひかれるようになった」のです。したがって、イが正解です。アは、文全体が本文の内容と異なります。ウは、「人柄がわからなくなった」、エは、「深く反省した」がそれぞれ誤りです。
- ④ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》  
傍線㉔の次の段落に「そんなことをした覚えはなかったか、思わず来し方をふり返らせる力のある段である。好意を示すのに理由はいらない」とあることに着目します。兼好の言葉によって、相手に「好意を示す」際に、「そんなこと」をしてしまったのではないかと、「来し方をふり返らせ」られると述べています。「そんなこと」とは、わざとらしく振る舞ったり、余計な理由をつけたり、もったいぶったりするようなことを指しています。したがって、Xには、「好意を示す」があてはまることわかります。Yには、「来し方」を言いかえた言葉が入ります。「来し方」とは、「自分の生きてきた道」「自分の過去」「自分の人生」のことです。

**4** 【出題の意図と対策】

近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入られています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。今回のように資料と話し合いの融合問題では、話し合いのテーマや各自の意見の読み取りはもちろん、資料のどこに着目しながら話し合いが進められているのかを正確に読み取ることが大切です。

【解答】

- ① 全体
  - ② エ
  - ③ ア・イ・エ（完答）
  - ④ Y 例 ア（Y・Zで完答）
- Z 例 「なぜなら」次世代が育っていくことがまちの発展には欠かせないと思うからだ。そのためには、保育所を充実させ、日常生活が便利になるよう大型スーパーなどを整備すればいいと思う。（79字）

【解説】

- ① ポイント《対義語の知識があるかどうか》  
「部分」は、「全体をいくつかに分けたものの一部」という意味。対義語は、「すべての部分」を意味する「全体」です。
- ② ポイント《資料を論理的に読み取ることができかどうか》  
「健二さんの意見が論理的なものとなるために」という設問文の条件に注意する必要があります。健二さんは、Xのあとで「自分の住むまちに満足している人が多いと言えそうだね」と述べています。その意見を裏付けるのは、全体の人数に対する満足度の高さを説明したエです。アは、「15%増加している」が誤りです。15%減少しています。イは、「20%以上増加している」が誤りです。16%増加しています。ウは、資料の読み取りとしては正しいですが、「わからない」と回答した人に着目しても、健二さんの意見を裏付けするものにはなりません。
- ③ ポイント《発言の特徴を理解できるかどうか》  
アは、光太さんの二回目の発言内容に合っています。イは、健二さんの二回目の発言内容に合っています。ウは、「自分の体験をもとにした」の部分が合っていません。エは、桃花さんの二回目の発言に着目します。桃花さんは、【資料Ⅱ】に関する良美さんの質問に対し、【資料Ⅲ】という「別の資料を提示し、その内容を踏まえて」答えを導き出しているの、合っています。オは、光太さんは、良美さんの発言を受けて意見を述べてはいませんが、良美さんは司会進行をしていないので合っていません。
- ④ ポイント《資料を適切に利用して、論理的な文章が書けるかどうか》  
Yは、あなたが考える住みやすいまちを【資料Ⅲ】から一つ選び、記号で答えます。Zは、Yで選んだ理由を一文目書き、二文目に実現に向けた具体策をまとめます。Yで選んだ内容と、Zで記述した内容が食い違わないように注意しましょう。例えばYで、力「環境への負荷に配慮したまち」を選んだのであれば、理由として、持続可能な社会へ向けて個人ではなくまち全体で取り組むべきであるからとし、具体策として、再生可能エネルギーを導入する、などが考えられます。